

令和4年度第2回 稲武地域まちづくり推進協議会 議事録

日 時	令和4年5月24日（火）午後7時00分～8時50分
会 場	旧商工会館

1 あいさつ

○大内会長

本日は、愛知県立大学の学生さんによるオンラインプレゼンがある。今後のまちづくりの推進にあたって、みなさんと共に取り組んでいきたいので、よろしくお願ひしたい。

2 協議事項

（1）愛知県立大学の学生によるプレゼン（「スタディーケーション」）について
横田委員；本日は、鈴木県議のインターンをされていた安藤さんに発表をしてもらう。1つの提案として、コンペで発表されたものになっているので、ぜひ各委員にも聞いていただきたい。

安藤さん；コンペのテーマは「30年後に住みたいまちづくり」であり、自分は「地域課題解決型スタディーケーション」について提案したので、本日、発表させていただきます。

<提案の概要>

- ・愛知県にある大学数は全国3位であり、学生が多い。大学生の力で過疎地域を活性化したい。
- ・「案ずるなら住むが易し」として、過疎地域で大学生自身が実際に住むことを提案。
- ・「スタディーケーション」とは、学習することを前提として休暇を楽しむこと。
- ・1～2か月の間、現地で生活をしながら、オンラインで大学の授業を受けつつ、住民のお手伝いをし、お小遣いをいただく。
（住民のお手伝いとは、例えば、塾を開いて子ども達に学習環境を提供することや、インターネットで特産品を販売すること等）
- ・予算は空き家の修繕に、100～500万円。光熱費は太陽光発電で発電し売電することで生み出す。Wi-Fi 使用料は必須。空き家の修繕費にもよるが、予算額は概ね全体で310万円ほどになる見込み。

<質疑>

松井晃委員；大学生が生活できる拠点が稲武地区内でもできるとよい。

杉田委員；市に質問になるが、空き家バンクは学生でも利用できるのか？

→杉山委員；空き家バンクは定住が前提になっており、一時利用は想定していないこともあるので、学生の利用は難しいと思う。

山田委員；提案いただいた内容は現実実践に移すことは可能なのだろうか？

→安藤さん；実践についてはまだ検討していない。収益として、お手伝いができるかどうかポイントかと思う。

大内会長；塾は大事である。稲武でも公文式が3月でなくなった。以前は、野入町で愛知大学の学生が来て、子ども達に勉強などを教えていたこともあった。

横田委員；安藤さんの提案を実現しようとする場合、旧商工会館を活用できるとよい。

古橋久三委員；コンペのテーマが「30年後に住みたいまちづくり」とのことであるが、稲武地区の場合、3年後も危ないと思う。

鈴木委員；大野瀬地区では、金城学院大学の学生を受け入れてきている。若い人が地域に入ることはいいが、当の学生たちは4年で卒業して、どんどん変わってってしまう。

安藤さんの提案については、次にどうしていくかを早く決めていくべき。やれることは早くやりましょう。

横田委員；このような提案があった場合、誰がプレーヤーになるかはいつも問題になるところかと思う。今回のプレゼンを聞いて、地域側が受入れについてどう考えていけるか。

→鈴木委員；大野瀬で受け入れていくこととして、手を挙げていきたいと思う。が、気になることとして、予算310万円については誰が支出するのか。例えば、空き家改修は行政か地域予算で出すことはできないか。また、草刈ならほとんどやってほしい。お小遣いならいくらでもあげる。

中村委員；安藤さんに質問だが、学生はボランティア活動には関心があるか？

→安藤；県立大では国際ボランティアが活発である。また、周囲の学生の話を知ると、授業はオンラインばかりであるので、自然に触れたいと言っている学生が多い。

横田委員；本日、結論を出す話ではないため、引き続き、協議していけたらと思う。

(2) 道の駅どんぐりの里いなぶりニューアルオープンについて

佐藤委員から資料に沿って説明。

山田副会長；宣伝、PRはどのように考えているか。

→佐藤委員；ひまわりネットワーク、ラジオラヴィートでの放送のほか、東海ラジオでは7月7日（木）に生中継を予定している。

大内会長；土日は午前10時ごろから来訪者が増える。安全対策は？

→佐藤委員；ガードマンを増やす。また、渋滞対策について対応を検討したい。

鈴木委員；土日は黙っていても人が来る。イベントを打つなら、平日に行うことも効果的かと思うが、実行委員会で検討したうえでのイベント実施になっていることでよいか？

→佐藤委員；その通りである。

三江副会長；実行委員会に1度、参加した。その際に、コンセプトについて、道の駅は「稲武の顔」であることから、稲武の資源・素材をオープニングイベントでPRするという話が企画案で出ており、非常に良いことだと思ったので紹介しておく。

(3) 前回協議会の宿題について

事務局（柴田担当長）から、資料に沿って説明。

①PR方法について

結論；稲武支所だよりに概要を掲載。関心がある住民が詳細を確認できるように、稲武支所だよりに、議事録を掲載する市ホームページのリンク先のQRコードも載せる。

②着地点について

結論；資料の通り、了承された。次回の協議会以降、各回、2団体ずつ取組状況や活動を進めるうえでの悩みなどについて発表してもらい、委員間で共有する。発表順は名簿の上から順にする。6月は、「いなぶ観光協会」と「稲武地区区長会」が発表当番になる。

3 各種話題提供について

(1) ワーキング部会、各委員からの報告

大内会長；5月29日（日）に、フィールドディスカバリーゲーム in 稲武が開催される。【チラシ配布】

→古橋久三委員；参加登録者は104名となっている。駐車場は大丈夫か？
(共催団体である「いなぶ観光協会」に別途確認する)

古橋真人委員；6月18日(土)に「蚕の飼育自由参観日」を開催する。【チラシ配布】

山田副会長；5月15日(日)の「歩かまい稲武」へのご協力ありがとうございました。参加者は約500名であった。今後も、各イベントはなんとか開催する方向で検討がされることを期待したい。

横田委員；雇用創出検討委員会で、「ネクストcommons・ラボ」さんの話を聞いた。「ネクストcommons・ラボ」は、岩手県遠野市でホップ畑の再生活動を行っている団体である。彼らからは、稲武地区はポテンシャルがあるので、今後、ぜひ関わっていったらという話だった。資金面や、地域マネジメントのコーディネーターという観点から、この場で紹介しておきたい。

古橋真人委員；補足であるが、「ネクストcommons・ラボ」は、例えば、地域でプレーヤーがいない時に、全国公募して人材を募集するネットワークを持つことが強みである。ただ、彼らはあくまでアドバイザーであるため、事務局をまわす人材が必要である。そのような人材は、だいたい地域おこし協力隊が受け持っているようだ。豊田市のように、地域おこし協力隊が不在の場合の進め方は検討事項である。

→鈴木委員；豊田市の場合、地域おこし協力隊の人件費の財源が国から支出されないというだけであって、他の制度で対応できれば問題ないはずである。市では中山間地域採用職員が、地域おこし協力隊の代わりとなる制度だという話もあるが、実際は異なるものである。地域おこし協力隊は、色々なきっかけ作りとして重要であると思う。

4 次回開催日

令和4年6月28日(火曜)午後7時～ at 稲武支所団体会議室

<以 上>